

【総評】

前回（2026年1月試験）の応用編はかなり難化したが、今回もその難化傾向が継続したものの、前回よりは得点しやすかった内容であった。初見の計算記述問題や、その場で深く考えなければ正解を導き出せない問題が複数問出題されたのは前回と同じである。前回と同じく、今回の合格率も採点調整（計算記述問題の部分点）に大きく左右されるであろう。前回と同程度の採点調整の場合には、前回（12.51%）より合格率はやや上昇すると思われる。

【基礎編 総評】

長期間の過去の傾向から見るとやや難しかったと思われる。計算問題は7問と前回と同じくいつもより多かったものの、すべての計算問題が既出の問題であった。全体としては、文章問題の難易度がやや高かったものの、50点ではなく54点程度以上が目標得点となる内容といえる。一般的に難しいといわれる個数問題（適切な文章の数を選ぶ問題）は4問出題され、標準的な問題数といえる。

【応用編 総評】

かなり難しかった前回（2025年9月試験）と比較すると、やや難易度が下がった。ただし、全体的に穴埋め文章問題の難易度が高く、初見のものも数多くみられた。一方で、計算記述問題は、定番問題が中心だったが決して易しくはなかった。また、深く考えなければ正解を導き出せない計算問題が出題される傾向は継続している。なお、第5問は、自社株ではなく相続税からの出題であり、自社株の場合と比べて得点しづらかったといえる。

■設例別講評

第1問 ライフプランニングと 資金計画	穴埋め文章問題は、障害厚生年金と公的介護保険からの出題で、いずれも易しく全問正解を狙えた。計算記述問題は、①3級の障害厚生年金、②老齢厚生年金の2問の出題であった、①は、300月みなし計算と加給年金の扱いがポイントであった。②は、めずらしくごくオーソドックスな内容だった。
第2問 金融資産運用	財務分析の計算は、穴埋め問題1問と計算記述問題1問の合計2問で、穴埋めでは1問を除いて既出の定番問題ばかりで得点源となった。もう1問の穴埋め問題はポートフォリオ運用が問われ、うち期待収益率や標準偏差の計算が4問だった。なかには、初見で考えさせられる計算問題があった。
第3問 タックスプランニング	3回ぶりに所得税ではなく法人税の設例で、問57、問58はオーソドックスな「別表四」から法人税額の計算記述問題であった。別表四の穴埋めは初見の内容はなく、易しかった。一方で、文章の穴埋め問題は「中小企業投資促進税制」が出題され、かなりの難問であった。
第4問 不動産	穴埋め、譲渡所得の計算、建蔽率・容積率、といういつもと同じパターン。譲渡所得は、頻出の居住用財産の譲渡であったが、取得費加算の特例を適用するためやや難しい。建蔽率・容積率はセットバックが不要で易しい。穴埋め文章問題は、取得の税金等と借家契約で、一部を除き易しかった。
第5問 相続・事業承継	前回とは異なり相続税総合の設例。小規模宅地の特例の計算、相続税額の計算、穴埋めといういつもと同じパターン。小規模宅地の特例の計算は、前々回の出題より易しかった。相続税額の計算は、贈与税額控除がやや難しかった。穴埋め問題の相続土地国庫帰属制度は応用編では初見で難問だった。

## 《2026年5月FP1級応用編配点予想》

受検者が自己採点を行うときの配点の目安としてご利用ください。  
作成者個人の見解のため、いっさい保証はいたしかねます。

記述計算問題は、正解しなくても部分点がつく可能性があります。  
実際には合格率調整のために配点調整が入る場合がありますので、下記とは全く異なったり部分点の扱いに変更が生じることが考えられます。

## 2026年5月応用編 配点予想

2026年5月24日現在

作成：梶谷美果

【第1問】 (20点)	《問51》	①～③各1点、④2点
	《問52》	①4点 ②4点
	《問53》	①～⑦各1点
【第2問】 (20点)	《問54》	①～⑥各1点
	《問55》	①3点 ②3点
	《問56》	①各1点、②～④各2点、⑤1点
【第3問】 (20点)	《問57》	①～⑧各1点
	《問58》	6点
	《問59》	①～⑥各1点
【第4問】 (20点)	《問60》	①～⑦各1点
	《問61》	①5点、②2点
	《問62》	①3点、②3点
【第5問】 (20点)	《問63》	6点
	《問64》	①3点、②3点、③2点
	《問65》	①～⑥各1点